

子宮頸がんワクチン 接種率は

答 勧奨再開後は増加傾向である



問 日本では毎年約1・1万人の女性が子宮頸がんとなり約2900人が亡くなっている。25歳から40歳の女性のが

んによる死亡の第2位は子宮頸がんによるものであり、30代までに子宮頸がんの治療で子宮を失って妊娠ができなくなる人が年間に約10000人いる。南風原町でのワクチン接種対象年齢、接種率を問う。

国保年金課長 支給対象年齢は

中学1年生から高校1年生までである。3回の接種回数は今和5年度が283回、今年度は10月末において364回の接種回数である。積極的推奨再開後の接種率は増加傾向である。

給付型奨学金を

問 どのような奨学金があるか。

教育長 町育英会からの無利子の学資貸与制度がある。

問 給付型奨学金の創設ができないか。

教育長 給付型奨学金に対する財源確保の研究が進んでおらず、現行の制度で支援に努めたい。

不登校児童支援を

問 不登校児童数、令和5年、小学校では10日から30日未満が150名、30日以上が129名の合計279名。中学校では10日から30日未満が205

名、30日以上が120名、合計325名いる中で、現状の支援体制で行き届いているのか。

教育長 担任、養護教諭、心の教室相談員など、学校の教職員が定期的に連絡を取り、一人ひとりに応じた支援を行っている。保護者についても同じように、家庭での様子や困り感など話を聞く機会を設け、切れ目のない支援ができるように取り組んでいる。

国道507号(現道)の現状は

問 高齢者が頻繁に横断する状況と聞くと現状把握しているか。

副町長 状況把握はしていない。

問 対応策等の計画はあるか。

副町長 町道72号線と国道507号との交差点に国道を横断する横断歩道及び標識が設置されている。今後は国道507号歩道に横断防止柵を設置する予定である。



予防しよう! 子宮頸がん